



著者プロフィール

橋本榮治 (はしもと・えいじ)

1947年 神奈川県横浜生まれ。

1976年 「馬酔木」編集長・福永耕二指導の「青年作家の会」が創会され入会する。

同時に水原秋櫻子選「馬酔木集」に初投句。

1987年 「馬酔木」同人。

1996年 第一句集『麦生』にて俳人協会新人賞受賞。

1997年 「馬酔木」編集長就任(2007年まで)。

1999年 「馬酔木」900号記念号編集0

2001年 「馬酔木」80周年記念号及び『馬酔木季語集』を編集。

2007年 「馬酔木」1000号記念号編集。

2003年 「件」創刊同人。

2005年 「琉」創刊代表。

2013年 「推」創刊、共同代表。

現在 「樞」共同代表・発行編集人、同人誌「件」発行編集人、「馬酔木」同人。

句集に、『麦生』(1995年 ふらんす堂)、『越在』(セレクション俳人『橋本榮治集』収録・単独未出版)、『逆旅』(2002年 角川書店)、『放神』(2008年 角川書店)、自句自解『橋本榮治集』(2019年 俳人協会)。セレクション俳人『橋本榮治集』(2004年 邑書林)、評論集・共著『林翔の一〇〇句を読む』(2011年 飯塚書店)、評論集『水原秋櫻子の一〇〇句を読む』(2014年 飯塚書店)、インタビュー楊『語りたいたい兜太 伝えたい兜太』(2022年 コールサック社)。

〈句集『瑜伽』より転載〉〈2023年6月14日時点〉

『瑜伽』(自選15句)

橋本 榮治

昨日満ち今日なほ満ちて八重桜
良寛忌越後は海も雪の中
負鶏となる一瞬のつちばこり
炊くまでは水の香の魚春浅し
棒あれば棒で遊ぶ子草萌ゆる
山ひとつ越ゆれば近江雪婆
ふくろふのこゑを眠りの中へ招ぶ
指揮棒のときをり天を指して春
木が揺れておのれがゆれて水中り
鳴神の集つてくる鞍馬口
一膳は病者仕立てよ雛の宴
晩婚の知らせ一行豆の花
八月が去る遠き蟬近き蟬
朝月も柩もほのかなるかたち
妹に夢で叱られ龍の玉